



軍師竹中半兵衛

1, 戦国時代の武将として、濃飛地方に伝わる者には、馴染みの斎藤道三をはじめ、織田信長、豊臣秀吉、明智光秀、竹中半兵衛（重治）、池田信輝、織田秀信、金森長近らがいる。

武将の物語だけでなく、岐阜には教科書に登場する史跡、伝承、風俗、技術（ものづくり）等が実にたくさん残っている。

それこそ、全国区の資源であり、後に掲げたものは、和歌山育ちの私が関心を持つ生きた教材にして、それぞれが特有のパワーを放っている。

この資源を活用しない手はない。

それらを有意に取り込み、別の視点を提供する新しい教育を実践すると、「人づくり」に役立つと、私なりに考えているが、どうだろうか。

規律を重んじるだけで横並びの教育では、例外やはみ出しへの許容度が低くなり、子どもから考える力なり学習意欲を削ぐ結果になる。

2, 誇れるパワーポイント（一部）

- ①伊吹山（海の化石／海から現れた石灰岩の塊）、縄文海進（岐阜市や大垣市の一部に残る海岸線）
- ②宮ノ前堆積層（1万3700年前の旧石器時代からの地層）
- ③今宿遺跡（農耕社会への移行／南北方向に並行する歩幅均一の足跡）
- ④美濃国分寺跡（豪族の氏寺から転換／仏教が国を守り安定させる力を持つとする考え方採用）
- ⑤養老の滝（養老孝子物語の舞台）
- ⑥淡墨桜（日本三大桜／樹齢1500年以上のエドヒガンザクラ）
- ⑦長良川鵜飼（1300年以上の歴史と漁法の伝統）
- ⑧不破関跡（古代日本の三跡／天下変乱の備え）

- ⑨古今伝授の里（古今和歌集の解釈・秘説相承）
- ⑩高山陣屋（江戸時代の代官所）
- ⑪白川郷（合掌造り）
- ⑫岐阜城（天下布武の拠点）、楽市楽座（フリーマーケット）
- ⑬崇福寺（織田信長の菩提寺）
- ⑭岩村城址（日本三大山城／高低差180メートルの霧ヶ城）
- ⑮関ヶ原古戦場（江戸幕府開闢の引き金）
- ⑯円空路（木端仏で10万體造願を達成した円空の辿った羽島・関・郡上・高山へのルート）
- ⑰郡上八幡（最大規模で完全勝利の百姓一揆）
- ⑱一斎の里（江戸幕府教育機関のトップ「昌平坂学問所」の儒官／門人3000人を教え「言志四録」を著して明治維新に影響を及ぼした佐藤一斎が生を受けた地）
- ⑲奥の細道結びの地（松尾芭蕉の決めていた旅のゴール）
- ⑳輪中（木曾三川のデルタ地帯での居住空間）
- ㉑中山道（馬籠宿、妻籠宿などの街道文化）
- ㉒馬籠宿本陣跡（島崎藤村生誕の地／「破戒」や「夜明け前」など歴史が変わる様を描いた）
- ㉓安住寺（山本芳翠が幼少期に住職から絵の手ほどきを受けた寺／パリで学び「洋画家の父」と呼ばれる）
- ㉔伝統産業（飛騨匠の技、関市の刃物、美濃市の美濃和紙）
- ㉕濃尾地震（死者7273人を数えマグニチュード8.0の日本史上最大級の内陸地殻内地震）

3、話が横道にそれてしまったが、今、豊臣秀長は、NHK大河ドラマ「豊臣兄弟」で取り上げられ、にわかに、軍師として脚光を浴びている。

三大軍師といえば、豊臣秀吉に仕えた竹中半兵衛と黒田官兵衛（孝高）、そして武田信玄の山本勘助を指し、豊臣秀長はクローズアップされることがなかった。

豊臣秀吉は朝廷最高職の関白になったが、武家棟梁の征夷大將軍は受けていない。いわば副将軍的な地位にあった故に、豊臣秀長は軍師扱いはされなかったのかも知れない。

しかし、豊臣政権の屋台骨となり、兄・秀吉の天下統一を軍事と内政の両面からサポートした。

先に死亡しなければ、朝鮮出兵には反対した筈であり、その後から豊臣政権の崩壊が

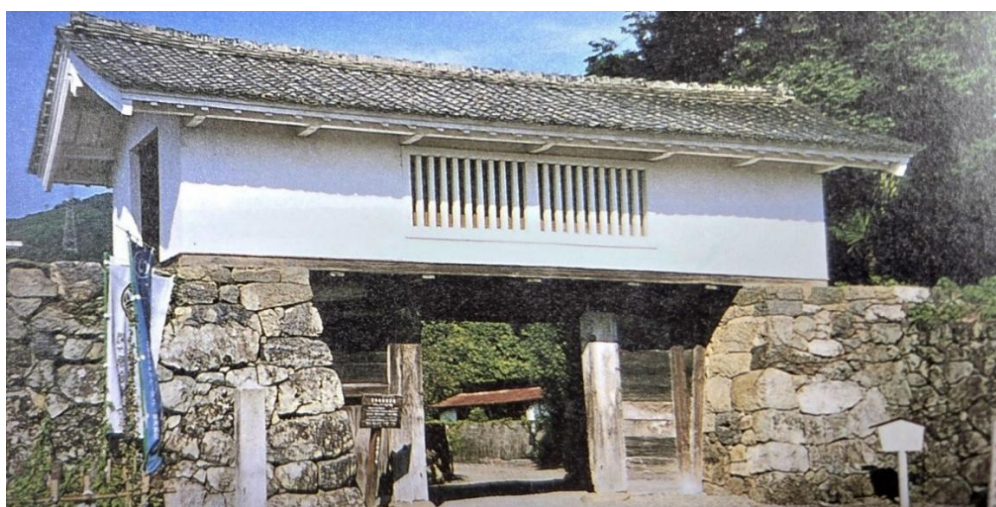
始まっている。

ちなみに、当時は、軍師なる役はなく、参謀として処遇されていたのではない
か。

今でいう企業の顧問弁護士といえそうだ（持ち上げすぎかな）。

4、さて、竹中半兵衛の陣屋跡は不破郡垂井町岩手に存在し、私もそこを訪ねたこと
がある。

正門の櫓門の柱と扉が当時のままのものと聞いたが（実際は竹中半兵衛の死後嫡男
重門が築造している）、今は、岩手小学校の正門として使われている。



陣屋跡は、櫓門南周辺に水堀を残し、北には空堀が連なる。

門を入れば、目隠し石垣にぶつかる。

何しろ、広さは数百町歩（約300ヘクタール）にも及ぶ。

5、言い伝えでは、竹中半兵衛は、幼年で、父・重元の跡を継いで城主斎藤龍興に仕
えていた。

ところが、21歳の折、わずか18人の小勢で井口（いのくち）城を奪い取った。
それを知った織田信長は、使いを出して、「美濃を譲り渡せば、半分は与える」と井
口城の引渡しを迫ったが、竹中半兵衛は、「城主に叛いた訳ではなく、主君の罪（怠
慢）を問うただけだ」とこれを断り、実力の片鱗を見せつけた。

その対応振りを見て、織田信長は、迎え入れて豊臣（旧羽柴）秀吉に仕えさせた。

もう一つの逸話に、両兵衛は、互いに信頼を深め才能を認め合った盟友の関係に
あった。

摂津国（兵庫県）の家臣荒木村重が主君織田信長に反抗して挙兵したとき（有岡の
戦い）、命じられて黒田官兵衛がその説得に出向いたが、幽閉される事態が起きた。

織田信長は、これを裏切ったと疑い、黒田官兵衛の子・松寿丸を殺せと命じたが、竹中半兵衛が機転を利かせ、独断で偽の首を信長に差し出し松寿丸の命を守った。松寿丸は、後の黒田長政であり、関ヶ原の戦いで東軍の主力として貢献し、その功績で筑前国を与えられ、福岡城を築き領主となった。

黒田官兵衛は、竹中半兵衛の恩義に報いるべく、竹中の石餅（こくもち）紋を譲り受け、自分の旗印とした。

それにしても、竹中半兵衛のすごさは、織田信長の命に抗して、その思い込みが間違っているとして、一命を懸けて正しい道を選択した点にこそある。

弁護士も、かくあるべしと教えられるエピソードだ。

6. 竹中半兵衛は、36歳の若さで、豊臣秀吉の播磨三木城攻めの陣中にて不治の病とされた結核により死亡した。

ついでながら、長寿ランキング（歳）ではこうなる。

竹中半兵衛	36
織田信長	47
豊臣秀長	52
黒田官兵衛	57
豊臣秀吉	61
徳川家康	73

7. また教育の話に戻るが、昨今、教師が教える生徒のことで保護者から苦情、ときにはカスハラを受けることがある。

それが、対話を通してうまく解決できず、中には学校側が交渉に弁護士を立ち合わせたり交渉事を一任するものまでが出ている。

しかし、教育に関しては、企業の場合のトラブルと同列に取り扱えないところがあり、弁護士が入ることで、保護者との距離を遠ざけたり教師に対して指導の誤りを反省する機会を奪う結果になったりする。

被害者が子どもであり悪い影響をもたらすことがあってはならない。

次回案内 岐阜放送「ぎふチャン」

浦田益之の言われてみれば…6月24日（毎月第4水曜日午後4時5分から）